

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ボーダレスアートスペースHAPシンつるみ		
○保護者評価実施期間	令和7年12月12日	～	令和8年1月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	51	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	令和7年12月1日	～	令和7年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 21
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月29日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもが安心感をもって通える関係づくりができており、「通所を楽しみにしている」「居場所を見つけられている」「職員の名前が家でもよく出る」など、信頼関係に関する前向きな声が多い。困った時に頼れる大人がいることで、落ち着いて過ごせたり、新しいことに挑戦しやすくなったりしている。	こどもの気持ちを受け止めながら見守り、必要な時にすぐ声をかけたり、選択肢を示したりして、安心して活動に入れるようにしている。送迎時の短いやりとりや、アプリ・連絡帳等で「その日の様子」「できたこと」「困ったこと」を丁寧に共有し、家庭と事業所でこどもの状況をつなげることを大切にしている。こどもが一人で抱え込まないよう、分からないことがあれば職員に聞ける雰囲気づくりにも意識的に取り組んでいる。	こどもごとに「安心につながる関わり方(声かけ・距離感・切り替えのコツ・苦手場面の回避策)」を整理し、職員間で共有して、誰が対応しても同じ安心が得られる体制を強める。保護者への報告は、活動内容だけでなく「その支援がこどもにどう役立ったか」「次回につながるポイント」を短く添えるなど、分かりやすさも高める。相談の入口(いつ・どこで・どう相談できるか)もより見えやすくし、安心して声を上げられる環境を整える。
2	アートを軸に、こどもの「作りたい」「やってみたい」を尊重しながら、達成感のある経験につなげる支援ができています。保護者からも「短時間でも作品を仕上げ帰ってくるので達成感がある」「次々発想が広がっている」「新しいことにチャレンジできている」といった声があり、自己選択や挑戦がこどもの自信につながっている。	こどもの興味や得意・苦手に合わせて、材料・手順・難しさを調整し、無理なく「完成」まで到達できるよう支援している。制作だけでなく、片付けや準備なども含めて、こどもが自分で活動環境を整えられるよう促し、自立につながる関わりをしている。活動がマンネリ化しないよう、素材やテーマを変えたり、外出やイベントなども組み合わせたりして、こどもが視野を広げられる機会を作っている。	作品や活動の記録を、写真や短いコメントで分かりやすく残り、「できたこと」「工夫したこと」「次にやってみたいこと」を本人・保護者と共有して、成長が見える形にする。短時間制作で終わる日だけでなく、連作(数回に分けて作る)や発表(展示・共有)など、達成感が継続する流れも選べるように整える。本人の“選ぶ力”をさらに育てるため、選択肢の見える化(メニュー表、素材カード等)も進める。
3	用途に応じた空間の使い分けや、物の配置の分かりやすさが工夫されており、「落ち着いて過ごせる場所」「制作する場所」などがイメージしやすい環境になっている。保護者からも「用途場所が分かっている」「本棚や制作作品が一目で分かる」「バリアフリーで安全」といった評価があり、安心して過ごせる土台が整っている。	道具や画材は「どこに何があるか分かる」ように配置し、こどもが自分で選びやすく、片付けもしやすい環境づくりをしている。清掃や整理整頓を日常的に行い、気持ちよく過ごせる状態を保つよう心がけている。小部屋(個別スペース)については、こどもによって落ち着き方が違うことを大切にし、その子に合った使い方ができるように柔軟に対応している。	体を動かして遊びたいニーズも一定数あるため、室内の動線の工夫や、屋外活動・外遊びの取り入れ方を整理し、「落ち着く」「制作する」「体を動かす」がバランスよく選べるようにする。建物や設備の点検・修繕については優先順位を決め、安心・安全を保ち続けられるよう計画的に検討する。環境面の工夫は、写真付きで保護者にも分かりやすく紹介し、安心につなげる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者にとって「分からない」「見ていない」と感じる情報が一部あり、取組が十分に伝わり切っていない可能性がある。特に、支援プログラムの内容、家族支援、地域交流、非常時の対応などは、良い取組があっても“知る機会”が少ないと評価につながりにくい。	日々の支援報告(アプリ・連絡帳・送迎時)は評価されている一方で、制度・仕組み・非常時対応・家族支援などは「まとまった形で伝える」機会が少なく、情報が点になりやすい。保護者の来所機会が少ない場合、室内環境や訓練の実施状況なども見えにくく、「分からない」という回答につながりやすい。	「保護者向けに要点をまとめた案内(1枚で分かる資料・Q&A)」を作り、年1回は面談時などに説明と配布を行う。非常時対応や安全計画、訓練の実施状況は、結果とポイントを短く伝える(アプリ配信+紙)など、受け取りやすい形にする。支援プログラムは“見たかどうか”に左右されないよう、日々の支援とどうつながっているかも一言添えて、理解しやすい説明に整える。
2	家族支援(ペアレント支援の情報提供、保護者同士の交流、きょうだい支援等)については、参加経験が少ない、または「ないと思う」「分からない」という声が一定数あり、体制や周知が十分でない可能性がある。	保護者の生活状況や参加のしやすさは家庭によって大きく違い、交流会や研修を“用意するだけ”では参加につながりにくい。加えて、相談は受けていても「どんな内容でも相談してよい」「どう申し込めばよい」が明確でないと、利用されにくい。結果として、家族支援が行き届いていない印象につながりやすい。	大きな会を増やすのではなく、短時間・小規模の形から始める(例:テーマ別ミニ相談会、困りごと別の情報提供、オンライン可など)。交流は「行事のついで」だけでなく、希望者が参加しやすい時間帯・回数で試行する。相談窓口は、方法(アプリ・電話・面談)と受付の目安を明確にし、安心して声をかけられるよう周知する。
3	外部の視点(第三者評価、専門機関からの助言、地域との連携の枠組み)の取り入れが十分ではなく、改善の材料が内部中心になりやすい。また、地域交流(児童館・放課後児童クラブ等)については「分からない」が多く、取組が継続的に見えにくい面がある。	第三者委員は設けているが「評価として定期的に実施し、改善に落とし込む」運用が未整備である。スーパーバイズや外部研修も、必要性は認識していても、時間確保や実施方法の整理が課題になりやすい。地域交流は単発になりやすく、参加できる子どもに限られると保護者から見えにくくなる。	第三者評価は「年1回」など頻度と方法を決め、評価→改善案→実施→報告までを一連で回す。専門機関からの助言は、対象ケースやテーマを決めて受けやすい形にし、学びを職員全体で共有する(ミニ伝達研修等)。地域交流は連携先を増やし、見学→短時間参加→参加拡大と段階を用意して、継続的な機会として整え、保護者にも取り組みが分かるよう発信する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ボーダレスアートスペースHAPシンつま

公表日 令和8年1月30日

利用児童数 令和7年12月7日 51人

回収数 37

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	27	1	5	4	<p>スペースが用途で分けられていたりして、子どもの個性と先生の仕事場により配慮してあると思います。</p> <p>事業所がいくつかあり、子供の状況によって調整してもらえるため（静かに過ごしたい、制作活動をしたなど）制作活動にはスペースは十分かと思えますが、連絡帳を見ると体を動かして遊んでいることもあるようなので、体を動かすにはもう少しスペースがあった方がよいのではと思います。</p> <p>楽しく過ごせる環境を作って頂き、ありがたいです。</p> <p>落ち着いて過ごせる場所、体を動かして遊べる場所と別れていて良いと思う。</p> <p>一度しか行った事ないためスペース的には利用日により、多かたりますのかもしれませんが、先生方がちゃんとサポートしてくださっていると思います。段々と、以前できなかったことが、できるようになっていることがあるからです。</p> <p>子供が普段何人いるか知らないから。</p>	<p>落ち着いて過ごす場所と、体を動かす場所を分ける工夫は今後も大切にしていきたいです。一方で「身体を動かすにはもう少しスペースがあると良い」というお声も受け止め、活動内容に合わせた棚配置の見直しや、屋外活動（公園・散歩等）の計画的な導入、利用人数や動線の調整を行い、より安全にのびのび過ごせる環境づくりを進めます。</p>
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	23	0	4	10	<p>子ども曰く、前よりも増えていると言うことです。</p> <p>いつも指導員さんに助言や見守りを頂いているようで、1人で活動している感じは子どもの話からはなさそうだから。</p> <p>子供から先生の話してくれるし、分からない事あれば先生に聞くと言っているから。</p> <p>利用後に、その日の様子を伝えてくださり、送りの際でも先生が話してくださるから安心できます。</p> <p>普段子供が何人いるか知らないから。</p>	<p>「見守りや助言が行き届いている」と感じていただき、ありがとうございます。</p> <p>送迎について「以前ギリギリと聞いた」というご不安も踏まえ、送迎体制の余裕確保（人員配置・ルート調整・緊急時代替）を継続して点検します。今後、お子さまが安心して活動できるよう、必要な場面に必要な支援が届く配置を大切にしています。</p>
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境（※1）になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	27	0	3	7	<p>バリアフリーで安全だと思います。</p> <p>何度か伺って来て、一目で本棚や制作の物品がわかるように配置されていると思いました。子どもにもわかりやすいとおもいます。</p> <p>一度しか行った事ないため用途で場所が分かれています。</p>	<p>「安全」「物の場所が分かりやすい」というお声を励みに、見通しが持てる環境づくりを継続します。来所機会が少なく「よく見ていないので分からない」という保護者さまもいらっしゃるため、室内の使い分けや配慮点を写真や簡単な説明資料で共有し、安心していただけるよう「見える化」を進めます。</p>
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	28	0	5	4	<p>よく先生がお掃除をされていたりしゃる様子を見かけます。</p> <p>子供が満足している</p> <p>直接現場を詳しく確認していないためとても清潔とは言えないが、落ち着く感じではある。</p>	<p>清掃の様子を見てくださりありがとうございます。一方で「とても清潔とは言えない」という率直なお声も大切に受け止め、清掃チェックの基準化（担当・頻度・点検表）と、制作活動後の片付け動線・収納の再整理を強化します。落ち着いて過ごせる空気感を守りながら、清潔さの面でもより安心していただけるよう改善します。</p>

適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	29	1	0	4	子供が新しい事にチャレンジできているので、みんなに合った支援をされているんじゃないかなと思います。放課後の短時間で仕上げて帰ってくるので達成感があり、次々発想を膨らませられるようになってきていると思います。子供が楽しいと言って行く事を楽しみにしている	「挑戦できている」「短時間で達成感がある」というお言葉をいただき、とても嬉しいです。今後もお子さまの“やりたい”を起点に、成功体験が積み重なる課題設定や、気持ちの揺れを見守る情緒面の支援を丁寧に行います。ご家庭とも共有しながら、次の一歩につながる支援を続けていきます。
	6	事業所が公表している支援プログラム（※2）は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	25	0	4	8	個性を伸ばす教材やオモチャ、美術館での展示など力を入れていらっしゃると思います。家族、子どもの希望や願いが体现されていると思います。見ません。	「個性を伸ばす教材や展示等に力を入れている」と感じていただきありがとうございます。一方で「見ていない」という方もいらっしゃるため、支援プログラムは配布・掲示・アプリ/紙での周知を強化し、いつでも確認できる状態にします。内容と実践がつながって見えるよう、活動例や写真、ねらいの説明も添えて分かりやすくお伝えします。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）（※3）が作成されていると思いますか。	31	0	5	1	親の気持ちや願い、本人の思いを汲み取って的確に計画書を作成して頂いています。子供と親の意見を尊重してもらっていると面談でそう感じました。	面談で伺った内容を大切に、今後も目標・支援内容・家庭での困りごとにつながる計画づくりを続けます。必要に応じて、途中でも見直しの機会を設け、より納得感のある計画に整えていきます。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	26	4	4	3	子供の事理解してもらい支援内容設定してもらっていると面談で感じました。個別計画が具体的なので。	今後も“分かりやすさ”を大事にしつつ、本人支援だけでなく、必要に応じて家族支援・移行支援の視点も丁寧に整理して記載します。保護者さまの子育ての参考になるよう、言葉の選び方や説明の工夫も続けます。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	31	0	3	3	とても親だけでは経験できないことに、取り組ませてもらい子どもが充実して過ごせていると思います。子供が満足している個別計画が具体的なので。	「家庭だけでは経験できないことに取り組んでいる」とのお声を励みに、計画に沿った支援を継続します。活動の意図や成長の変化が伝わるよう、できたこと・頑張った過程・次の目標を分かりやすく共有します。お子さまの満足感が続くよう、無理のないステップで支援を積み重ねます。
	10	事業所の活動プログラム（※4）が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	25	1	6	4	興味のあることから多角的に視野を広げて制作させてもらったり、お友だちと一緒に遊ぶ機会も作って頂き、人と自分はどう付き合うか経験させてもらっていると思います。活動プログラムがあるというよりも本人のやりたいことを尊重していると思う。出かけたり、他の利用者さんと遊んだり話したりしているから。タブレットやカード遊びが多い。	「興味から視野が広がった」「人と関わりを経験できた」というお言葉をありがとうございます。一方で「タブレットやカード遊びが多い」という見え方もあるため、活動のねらい（休息・切替・対人・創作への導入等）を説明できる形に整えます。制作・外遊び・交流・選択活動のバランスを点検し、より多様な体験につながるよう工夫します。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	11	8	2	16	休日は同世代の友だちと遊ぶことがあります。トラブルが減ったと思います。すみません、分かりません	「分からない／ないと思う」というお声を受け止めます。現状の機会の有無にかかわらず、地域とのつながりは大切なので、地域イベント等との連携の可能性を整理し、実施できる範囲で増やしていきます。実施した場合は、保護者さまに分かる形で活動報告を行います。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	33	1	1	2	利用する際丁寧に教えて頂きました。	今後も初回説明の質を保ち、分かりづらい点が残らないよう、必要に応じて補足資料や確認の時間を設けます。いつでも質問していただける雰囲気づくりも大切にします。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	27	4	4	2	支援内容の説明きちんと話して頂きました。面談で実施された。	今後も、「何を・なぜ・どう支援するか」が分かる説明を続けます。必要があれば後日でも、改めて説明の機会を作ります。

保護者への説明等	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング ※5)等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	14	6	2	15	参加はしたことがないが定期的に交流会が開かれている。 すみません、分かりません ないと思う。	「交流会がある」というお声がある一方で、「分からない/ないと思う」もあり、周知の不足が課題だと受け止めます。実施している場合は日程・内容・参加方法を分かりやすく案内し、未実施の場合はニーズを確認しながら、小規模でも参加しやすい情報提供(ミニ講座・資料配布等)から整えていきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができていますか。	34	2	1	0	子供の事理解して頂き支援して頂いてます アプリで常に報告をもらっている。	お子さまの小さな変化や頑張り伝わると、記録の質も大切にします。必要に応じて、個別の確認や補足連絡も行います。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	10	4	2	デイの様子など話して頂いています。 ある。	「ある」と感じていただけている一方、評価が分かっている可能性もありますので、面談の機会については時期・方法・申し込み方を明確にし、必要な方が利用しやすい形に整えます。子育ての困りごとを安心して話せる場として、今後も丁寧に対応します。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	33	3	0	1	本人が困ったときや手伝ってほしいときに頼れる職員の方がいるんだと子供と話してよくわかる。 支援して頂いてます 寄り添う意識がある。	「頼れる職員がいる」「寄り添う意識がある」とのお言葉をありがとうございます。お子さまが困った時に“助けて”と言える関係づくりを、これからも大切にします。支援の一貫性が保てるよう、職員間の共有も丁寧に行います。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	12	9	3	13	参加した事がないので分かりません。 ないと思う。	参加のハードルが高い可能性も考えます。まずは負担の少ない形で、情報提供(紙・オンライン)や、希望がある場合の交流の場づくりを検討します。ニーズを確認しながら、無理のない形で整えていきます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	25	1	3	8	いつも丁寧に対応して頂き感謝しています。 適切に対応して頂いてると思います。 面談がある。	「丁寧で安心できる」とのお言葉をありがとうございます。今後も相談しやすい雰囲気を守りつつ、相談窓口や方法(面談・電話等)を分かりやすくお伝えします。迅速さと丁寧さの両立を大切に、必要に応じて関係機関とも連携します。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	33	1	1	2	連絡帳の内容がわかりやすく、自宅での会話にも役立っています。 子供、親の思い理解して頂いてると思います。 アプリで行うことができる。	「分かりやすい」「家庭での会話に役立つ」とのお声をありがとうございます。今後も、保護者さまが安心できる情報量と分かりやすさを意識します。また、伝え方の好みはご家庭によって違うため、必要に応じて、説明の仕方や連絡方法も柔軟に調整します。
21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	34	0	1	2	アプリでその日の様子がわかるようになっている。 毎回デイでの子供の様子を教えて頂いてます 期間情報誌がある。	「アプリで分かる」「情報誌がある」というお声を励みに、発信を継続します。見逃しが無いよう、複数の方法(紙・掲示・アプリ等)で周知する工夫も続けます。自己評価結果なども、必要な方が見つけやすい形で整理します。	
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	33	0	2	2	他の利用者の名前や漏れなど聞いた事はないです。	今後も、職員の意識づけと運用(保管・持ち出し・記録管理)を徹底し、安心してご利用いただける体制を維持します。	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19	1	2	15	教えて頂いてます	「教えてもらっている」とのお声をありがとうございます。今後は、必要な方に確実に伝わるよう、要点をまとめた案内や、訓練実施の簡単な報告なども工夫し、分かりやすい周知を続けます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	16	0	0	21	親にも説明してもらってます	説明が届いているとのこと、安心しました。訓練は「やっている」だけでなく「保護者さまが内容を把握できる」ことも大切に、実施後には要点を分かりやすく共有していきます。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	22	0	4	11	今までケガなどないし安全の確保して頂いてると思います	「ケガがなく安心」というお声をありがとうございます。引き続き、活動内容に応じた見守りと環境調整を続けます。安全面で気になることがあれば、遠慮なくお知らせいただけるようお声かけも行います。

	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	27	1	1	8	今まで事故などなかったですが、子供の体の不調など教えて頂いてます	今後も、体調の変化や気づいた点は早めに共有し、必要があればご家庭と相談しながら対応します。保護者さまが不安にならない連絡の仕方を大切にします。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	35	0	1	1	喜んで、次回の通所をいつも楽しみにした発言がきかれています。 通い始めのころは同じ学校の子もいなく、少し不安そうだったがその中でも自分の居場所を見つけ、安心できる職員の方がたくさん寄り添ってくれてその方の名前がお家でもよく出てくる。 行く事を楽しみにしています	「居場所を見つけたい」「職員の名前が家に出る」というお言葉がとても嬉しいです。安心は一日にして育たないからこそ、今後も、お子さまの気持ちに寄り添いながら、信頼関係を丁寧に積み重ねます。新しい環境が苦手なお子さまにも無理のない導入ができるよう、個別に工夫していきます。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	34	0	2	1	公園に連れて行ってもらったり、お部屋でパソコンをしたり、いつも楽しそうに預けている親としても安心している。 行く楽しみにしています とても楽しみに通所しています。 利用日がいつなのか？聞いてくるようになりました	「楽しそう」「次の利用日を気にするようになった」というお声を励みに、楽しい経験を増やしていきます。制作やPC活動に加え、外遊びや体験活動などもバランスよく組み合わせ、飽きずに通える工夫を続けます。お子さまの“楽しい”が次の成長につながるよう支援します。
	29	事業所の支援に満足していますか。	33	0	4	0	子供が楽しんで行ってます。いつも有難うございます。感謝してます。	温かいお言葉をありがとうございます。ご家庭が安心して任せられる支援であることを目指し、今後も丁寧に取り組みます。お子さまの「できた」「楽しかった」が増えるよう、本人のペースを大切にしながら支援を続けます。これからも気になることやご希望があれば、いつでもお聞かせください。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ボードレスアートスペースHAPシンつまみ				公表日	令和8年1月30日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		部屋の広さと子どもたちの動きやすさを見ながら、机の配置や収納場所を見直し、安心して活動できるスペースづくりをしています。	活動内容や人数によってお部屋の使いやすさが変わるため、混み合いやすい時間帯の工夫（場所の使い分け）も含めて、定期的に見直します。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		基準を満たすだけでなく、子どもの特性やその日の様子に合わせて、見守りや支援が行き届くよう職員の配置を調整しています。	こどもの特性やその日の状態によって必要な見守りが変わるため、担当や配置をより細かく調整し、必要な支援が届くようにします。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		道具や画材は「どこに何があるか分かる」ように置き場所を工夫し、自分で選んだり片付けたりしやすい環境にしています。	分かりやすさの感じ方は子どもによって違うため、スタッフがついてサポートしていきます
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		物は多いですが、整理整頓と清掃を日常的に行い、心地よく過ごせる環境づくりを続けています。	建物が古くなってきているため、修繕や設備の更新の優先順位を決め、安心して過ごせる環境を保てるよう検討します。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		落ち着きたいときに使える小部屋（個別スペース）を用意し、必要に応じて静かな場所で気持ちを整えられるようにしています。	小部屋は子どもに合った使い方を大切にしつつ、見守りのポイントを職員間で共有して安全に利用できるようにします。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		○	職員が参加するミーティングで、気づきや課題を出し合い、できることから改善につなげています。	ミーティングで話し合うだけで終わらず、「やってみた結果」を確認して次につなげられるよう、改善の流れをより分かりやすく整えます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者アンケートに加えて、サポートシート等で希望や困りごとを確認し、支援や運営の見直しに活かしています。	いただいたご意見がどう反映されたかが見えやすいように、意見を整理し、対応状況を伝える工夫をします。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員アンケートや面談で意見を聞き、現場の声を反映できるよう改善提案を共有しています。	運営側と現場での情報共有が行き届くよう、共有の回数や方法を整え、決まったことがスムーズに伝わるようにします。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者委員はおいております。	第三者の目で見てもらった仕組みが十分ではないため、外部の方から評価や助言をいただく方法を検討します。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		月1回程度の内部研修を行い、外部研修も案内して参加しやすいよう調整し、学びを支援の質向上につなげています。	研修の学びを現場で活かしやすくするため、受講後に内容を共有する時間を作るなど、学びが広がる工夫をします
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムをホームページで公開し、事業所の支援内容が分かりやすいようにしています。	さらに周知をすすめて、活動内容がわかりやすいようにしていきます。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		アセスメント（聞き取り・観察）をもとに、一人ひとりに合った個別支援計画を作成しています。	ニーズは把握できているため、今後は目標をより具体的に、「何ができるようになったか」が分かる形にしていきます。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		計画づくりは児童発達支援管理責任者だけでなく、関わる職員も一緒に検討し、子どもにとって最もよい支援になるよう話し合っています。	計画を職員全員が同じように理解できるよう、確認のタイミングや共有方法を統一し、支援により活かします。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画は職員間で共有し、計画に沿った支援ができるようにしています。	計画を職員全員が同じように理解できるよう、確認のタイミングや共有方法を統一し、支援により活かします。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○	日々の様子を観察し記録を残し、必要に応じて評価ツール等も活用しながら、支援の内容を見直せるようにしています。	評価ツールや観察の結果を、計画の見直しにもっとつなげられるよう、評価のやり方やタイミングを整えます。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		本人支援・家族支援・移行支援・地域とのつながりなど、必要な項目が抜けのないよう複数の職員で確認しています。	必要な項目は入っているため、今後は「支援の成果」も確認しやすいように、振り返りの視点を増やします。

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動プログラムはチームで話し合って決め、いろいろな職員の視点を取り入れています。	全員が意見を出しやすいように、事前に意見を集める方法なども取り入れて、話し合いの場を整えます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		活動が同じ内容に偏らないよう、子どもの興味や状況に合わせて素材や手順を目に見える形で見てもらい、希望する制作や活動がしやすいように工夫しています。	活動が偏らないように、季節や素材、ねらいのバリエーションを整理し、定期的に見直します。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別の制作活動と、外出や行事などの集団活動を組み合わせ、子どもに合った経験が積めるようにしています。	個別と集団の活動を続けつつ、集団活動では「どんな力を育てたいか」をよりはっきりさせ、安全面も含めて進めます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援前に、その日のねらいと役割分担を確認し、チームで連携して支援できるようにしています。	忙しい日でも打合せができるように、短時間でも共有できる形（要点だけの確認）を作った連携を保ちます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援後に振り返りを行い、その日の様子や支援内容を共有しています。記録は見返しやすい形で整理しています。	記録は整理できているため、今後はさらに見返しやすい、引き継ぎもしやすい形にするために、導入したシステムの活用を進めます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の記録を徹底し、支援の振り返りや改善につなげています。	記録の負担が増えすぎないように、残す内容を整理し、必要な情報が分かりやすく残る工夫をします。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的なモニタリングで、保護者の意向や子どもの変化を確認し、必要に応じて計画を見直しています。	モニタリング結果が支援にどう反映されたか分かるように、変更点を明確にし、共有を強化します。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	○		創作活動を中心にしながら、整理整頓などの生活面、外遊びや地域イベントなども取り入れて、幅広い経験ができるよう支援しています。	地域とのつながりをさらに深めるため、単発の参加だけでなく、継続的に関わられる機会づくりを進めます。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		「自分で選ぶ」機会を大切にし、やりたい活動を自分で決めて取り組めるよう支援しています。	自分で選ぶ力をより育てるために、選択肢の示し方（見える化、段階づけ）を整え、「選ぶ→やり切る」まで支援します。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		会議には、子どもの様子をよく理解している職員が参加し、具体的な状況を共有できるようにしています。	会議で伝える内容が分かりやすくなるように、事前に要点を整理して共有できるようにします。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて情報共有し連携しています。	連絡の手順や共有する内容を整理して、よりスムーズに連携します。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校とは予定や送迎時の注意事項などを共有し、日々の連絡調整を行っています。	学校との情報共有を、予定だけでなく支援に役立つ情報（配慮や成功した関わり）まで広げられるよう工夫します。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		就学前に通っていた園や事業所等との情報共有が必要な場合は、状況に応じて連携を進めています。	就学前の機関とのつながりが十分でないため、必要なケースから連携を進め、支援が途切れにくいようにします。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		卒業後の移行先に、支援の経過や配慮点など必要な情報を提供し、スムーズに引き継げるようにしています。	移行先に渡す情報を、より見やすい形（要点シート等）に整え、引き継ぎがスムーズになるようにします。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		必要に応じて情報共有し、支援に活かしています。	専門機関からの助言や研修の機会が少ないため、定期的に相談や助言を受けられるよう検討します。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		行事への招待など、地域の子どもと関わる機会を作っています。	地域の子どもとの活動を増やすため、参加しやすい形（短時間参加など）も含めて機会を広げます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		必要に応じて協議会等の研修に参加し、地域の情報を支援に活かしています。	協議会等で得た情報を、職員に共有して支援に活かせるよう、共有の仕組みを整えます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳や送迎時のやりとりで、家庭と事業所で子どもの状況を共有しています。	家庭と事業所での情報がよりつながるように、要点を整理して伝え合い、次の支援に活かします。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		申し出に応じて相談対応を行い、支援につなげています。	家族支援の体制が十分でないため、相談の窓口や情報提供を分かりやすくし、必要に応じて支援につなげます。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に運営規程や利用者負担、支援内容について丁寧に説明しています。	契約時だけでなく、利用開始後も必要な情報を確認できるように、分かりやすい資料や説明の機会を整えます。	

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		サポートシート等を使い、子どもと保護者の意向を確認して計画に反映しています。	子どもの意思が言葉で出しにくい場合もあるため、選びやすい提示（写真・カード等）で意思確認を厚くします。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画書を示しながら支援内容を説明し、同意を得るようにしています。	計画の内容がより理解しやすい、質問しやすい場も作ります。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		相談があった場合は、面談や助言などで対応しています。	相談を受け付けていることが伝わるよう、相談方法や窓口を分かりやすく周知します。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		保護者交流は常設の会はありませんが、行事等で参加機会を作り交流につながる場を設けています。	交流の機会を、行事だけに頼らず、小さな交流（短時間・テーマ型など）も検討し、参加しやすくします。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情対応の体制を整え、相談があれば速やかに対応しています。必要に応じて行政機関への報告も行っています。	苦情対応の仕組みはあるため、より安心して伝えていただけるよう、周知の方法を見直します。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		刊行物の配布やSNS等で、活動内容や行事予定を発信しています。	情報が届きにくいご家庭もあるため、紙・SNS・口頭など複数の方法で同じ情報が届くよう工夫します。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の管理ルールを定め、職員にも周知して漏えい防止に努めています。	ルールは整っていますが、うっかりミスを減らすため、定期的な確認と研修で注意点を共有します。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子どもや保護者に合わせて、伝え方（方法や分かりやすさ）を工夫しています。	伝え方の工夫を、職員間で共有しやすい形にまとめ、より良い方法を継続して探します。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		展覧会や子ども食堂など、地域に開かれた取り組みを行っています。	地域に開いた取組は続けつつ、協力先を増やし、継続的な関わりにつながるよう工夫します。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		緊急時や感染症等の各種マニュアルを整備し、訓練も行っています。	訓練は行っていますが、内容が保護者に伝わりきっていないため、分かりやすい形で周知し、安心につなげます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCP（業務継続計画）を策定し、災害時を想定した訓練を実施しています。	BCPはありますが、非常時の動きが保護者にも分かるよう、連絡方法や引き渡しの流れを整理して周知します。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		服薬や発作等の情報はアセスメント時に確認し、その後も変化がないか注意して連絡を取り合っています。	事前確認はしていますが、情報の更新漏れがないよう、定期的に確認するタイミングを決めています。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーは医師の指示書に基づいて対応しています。	指示書に基づく対応を徹底するため、職員全員がすぐ確認できる共有方法を強化します。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づき、研修や訓練、点検等を行い安全に支援できるようにしています。	点検や改善は行っていますが、研修・訓練の結果が日々の支援に確実に活きるよう、振り返りと手順の見直しを続けます。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	○	安全に関する取り組みが保護者にも分かるよう、必要な情報を伝えるようにしています。	安全計画の取組内容がより伝わるよう、要点をまとめて配布・説明し、家庭とも連携を深めます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットはすぐに共有し、再発防止策を話し合っています。	共有はできていますが、原因や対策が分かりやすく残るよう、まとめ方を工夫して再発防止につなげます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止研修を実施し、適切な支援ができるようにしています。	研修は実施していますが、日々の支援の振り返りにも虐待防止の視点を入れ、気づきを増やします。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束が必要となる場合の要件を組織で定め、事前説明と同意、計画への記載を徹底しています。	体制は整っていますが、身体拘束にならない工夫（環境調整や関わり方）をより具体的に、保護者への説明も分かりやすくします。	